

「新型インフルエンザ」流行中！

「鳥インフルエンザ」は以前から良く聞いていましたが、今回の「豚インフルエンザ」は初耳という人も少なくなかったと思います。メキシコから発生し、毎日毎晩テレビやラジオで「新型インフルエンザ」(豚インフルエンザ)のことが報道されています。最新情報(5月17日時点)では、関西の高校生が次々と発症し、渡航歴もないことからヒト→ヒト感染が成立し蔓延しつつある状況です。

しかし、「騒いでいるのは日本だけ」という人もいます。感染者が多数出ている米国のニューヨークやカナダの観光地の様子がテレビで流れていましたが、誰一人としてマスクをしている人はいませんでした。韓国でも何人かはマスクをしている人がいましたが、日本人の観光客でした。

実はAソ連型やA香港型などの「季節性インフルエンザ」でも国内で毎年1万人が亡くなっているのです。それからすると現在、世界で数千人が罹患し、数十人が亡くなっている「豚インフルエンザ」はたいした事ないとも言えるでしょう。

WHO(世界保健機構)は現在、警戒フェーズ5と発表しており、人から人へと感染が確立してしまうフェーズ6(パンデミック期という)も時間の問題と言われていきます。フェーズと言うのは感染の広がる程度や様子を意味しているもので、その病気の重症さではないと理解できます。

感染症情報センター長の岡部先生は「日本には、すべてを心配する「過剰心配症候群」と、大したことはないと思う「無視症候群」の両方がいる。」と国民性を指摘しています。

私ども医療機関は、SARSのような最強の毒性を持つ「新型インフルエンザ」を想定して動く必要があります。誰一人として免疫を持たない訳ですから、最前線でリスクを抱えながら診療しなくてはならないのです。そのために「新型インフルエンザ」の患者さんが、診療所や病院に直接入らないように工夫しなくてはならないのです。待合室や診察室などにいる他の患者さんや医療スタッフに感染してしまう恐れがあるからです。

それを防ぐには発熱や全身倦怠感が発症し、「新型インフルエンザ」に感染していると思われた人は、まず電話で主治医のいる医療機関へ受診が可能なかの許可を得てもらいたいのです。そこで感染の可能性大と判断した場合は、指定された場所(南部医療センターの発熱外来など)をまず受診していただくようになります。

患者が発生した関西では、軒並み休校、イベントの中止が決定されています。これ以上蔓延させないためには「人ごみには出かけない」という事が必要ですが、地域経済への影響が大きいと懸念されます。

個人的に身を守るためには、基本はマスク、手洗い、うがいです。幸い今回の「新型インフルエンザ」は従来インフルエンザとそう変わりはなく弱毒性ということですが、常に最強の毒性を持つインフルエンザを想定して行動していく必要があると思います。今回はインフルエンザの広がり方が勉強できますし、いざと言う時の予行演習だと思っています。いたずらにパニックにならず、正確な情報を得て行動することが大切です。(たまなは)